

【令和6年度】公立大学法人秋田県立大学 職業実践力育成プログラムに係る自己点検・評価

<概要>

課程名：スマート農業指導士育成プログラム

実施期間：令和6年5月31日(金)～令和7年3月26日(水)

受講者数：20名

修了者数：18名

評価項目	プログラム実施組織による自己点検・評価	プログラム評価委員会の評価
1. 教育課程(プログラム実施状況、カリキュラムの妥当性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>当プログラムは学校教育法第105条に規定する特別の課程に対応し、スマート農業において必要とされる新たな知識・技術・技能を修得した支援・指導人材である「スマート農業指導士」を養成するために必要な学修領域・カリキュラムが配置されており、体系的に知識を修得することができる。</li> </ul>	<p>営農能率・精度・収量アップのための体系的な知識・技術・技能を習得できる先駆的な教育課程であり、「スマート農業指導士」養成に必要な学習領域がバランス良く配置され、ロボット農機等の操作演習も含む妥当性の高いカリキュラムである。</p> <p>全国に先駆けた取り組みとして非常に評価できるが、特定分野を深く学びたい者向けにフォローアップや選択項目など、さらなる深化メニューの追加が望まれる。</p>
2. 企業、実務家等と連携して行う双方向の授業等、実践性の高い授業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>当プログラムは企業、団体等と連携して実践性の高い授業を実施している。履修68.5時間のうち55時間(約80%)は、文科省が定める実践性の高い授業に該当している。</li> </ul>	<p>本プログラムは、作業効率・精度・収量アップに繋がり、農業機械メーカーやソフトウェアメーカーなど幅広い企業・団体と連携することで実践性の高い授業内容となっており、民間企業のシーズに触れられる点が評価されている。実務家による現場に近い講義は意義深く、双方向性も確保されているが、サービス停止企業があるため提携先の更新が必要。受講者が習得内容を現場で実践できるよう、専属担当者による継続的なフォローアップが期待される。</p>
3. 教育成果(身に付ける能力を修得したか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講生は、全ての講義・演習を履修し、最終課題(スマート農業普及活動計画)の作成・提出、プレゼンを行った。最終課題のプレゼンは、生物資源科学部・AIC教員5名とシステム科学技術学部教員1名が審査を行い、身に付ける能力の修得度合いを評価した。</li> <li>講義・演習の履修状況、最終課題の評価結果をもとに、AIC教育プログラム委員会において18名の修了を認定した。</li> </ul>	<p>小テスト・レポート・最終課題提出を通じ、高い教育成果をあげており、修了者は普及活動に活かせる知見を得ている。最終プレゼンテーションでスマート農業普及活動計画を多角的に評価し修了認定することは適切かつ重要で、受講内容の整理や評価検証に有効である。今後は、未修了者の事情を把握し改善に繋げる知見として活用すること、また普及活動計画の内容をタイムリーに共有することが望まれる。</p>
4. 受講者支援(学修支援体制、学修支援状況)	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラム専属職員は、オンデマンド講義の視聴状況を確認し、視聴が遅れている受講生に対して個別に視聴を促す連絡を行った。また、担当教員は、最終課題作成に対して受講者への個別対応も行うなど、きめ細やかな学修支援を行った。</li> <li>外部講師によるAIC園場等での演習の際には、担当教員が外部講師の講義補助を行い、効果的な学習環境づくりに努めた。</li> <li>受講後アンケートで出された質問に対して、後日、外部講師または担当教員より回答し、受講生全員で回答内容を共有している。</li> </ul>	<p>本プログラムのきめ細やかな学修支援とフォローアップ体制について高く評価できる。主担当教員による最終課題への個別対応や、アンケートへの回答共有などが、受講生一人ひとりの習熟度と理解度を高めるために有効に機能している。仕事を抱える受講生に対して、支援が必要な場面で的確に対応できており、十分な受講者支援が行われていると判断される。オンデマンド講義の視聴が滞る受講生に対しては、所属機関と状況を共有することで連携した対応も考えられる。</p>
5. 組織運営(教育組織の適切性・妥当性等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営組織は、外部講師対応や受講生対応などの各種の事務処理などを担当する専属職員を配置し、教育組織への負担を軽減させている。</li> <li>教育組織は、実務経験の豊富な教員を配置し、カリキュラム開発、プログラムの実施、学習の進捗管理が適正に行われた。</li> </ul>	<p>本プログラムの運営組織・教育組織の体制は、機能分化と専門性が確保されており、担当教員には普及指導員経験者もいることから、進捗管理も適切に行われ、円滑で質の高い運営に貢献し、高い修了率に寄与した。専属職員の配置は適切であり、大学教員が担うのが困難な修了生へのフォローアップや講師陣との連携において、今後さらに重要な役割を果たすことが期待される。全体として、運営組織体制は適切に行われたと評価できる。</p>

評価項目	プログラム実施組織による自己点検・評価	プログラム評価委員会の評価
6. 施設設備(施設及び設備の整備状況)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R6 年度も、Wi-Fi 環境、冷暖房環境、スクリーン映写や音響環境が整った研究・管理棟において、講義や演習を行った。</li> <li>・必要に応じて演習用ノート PC を受講生全員に貸出し、受講生の利便性の向上を図った。また、AIC 圃場での演習の際は、熱中症対策としてテント設営を適宜実施した。</li> </ul>	<p>学習環境および安全管理体制についても十分な配慮がなされ適切であった。施設・設備は整っており、Wi-Fi 環境が整った研究・管理棟での実施に加え、演習用 PC の貸し出しがあったことは学習効果と安全性を担保する上で評価される。全体として、講義や演習環境に十分配慮して運営された良い取り組みである。</p>
7. 広報活動(受講生の募集・広報活動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生募集の際には、大学 HP への情報掲載、秋田県庁および県内市町村や JA など、関係機関・団体に対する募集要項の郵送等、幅広い周知を行った。</li> <li>・地域の農業者や農業団体などによる AIC 見学会、プログラム担当教員による講演や学会報告・論文投稿、本学 SNS での演習動画の公開、新聞・テレビなどメディアによる情報公開を通じ、本プログラムの周知に努めた。</li> <li>・以上により、様々な属性からの応募があったことから適切に広報活動が行われていると評価できる。</li> </ul>	<p>本プログラムの広報活動は、考えられるほとんどすべての媒体と手段を駆使し積極的に取り組まれ、適切に実施されたと高く評価されているが、その価値に比して全国への周知はまだ十分とは言いきれない。次回以降は、JA 会報や農業新聞などの農業者に広く到達できる媒体の活用を期待するとともに、修了生を通じた広報活動も検討されたい。ただ、他県からの問い合わせがあるなど、広報の努力は評価できる良い取り組みであったと総括できる。</p>
8. 企業等の意見を聴くための仕組みの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業指導士育成プログラム評価委員会に、企業や県庁、JA などから外部委員を配置した。</li> <li>・スマート農業に係る学生・社会人教育事例（高知大学）の収集を行い、AIC 教育プログラム委員会および AIC 人材育成チームでの情報共有を図った。</li> </ul>	<p>評価委員会は企業、県庁、JA など幅広い関係組織から外部委員が選ばれ、地域のニーズや産業界の最新意見を聴く仕組みが整備され、DX 先進県からの情報収集もあり適切な運営に努めている。委員会運営は適切であると評価されるものの、双方向の情報交換のためオンラインでの実施や事前のスケジュール調整が必要だったのではないかと。今後は、企業の意見を聴くだけでなく、より多くの企業がプログラムに参加できる仕組みを整えていくことも必要。</p>
9. 社会人が受講しやすい工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当プログラムの総時間の約 56%をオンライン（オンデマンド、一部ライブ配信）で実施し、社会人の受講に配慮した。</li> </ul>	<p>総時間の約 56%をオンラインで実施することで、他の仕事を抱える社会人受講者への配慮がなされ、受講しやすいカリキュラムと負担軽減に大きく寄与した。ただし、一部の陳腐化した内容については、更新するかオンライン講義で補完することが望ましく、操作習得に有効な演習時間の若干の拡大も期待される。基本的に受講者への配慮は十分になされており、これ以上は受講者本人および所属組織での業務コントロールに委ねられるところである。</p>
10. 受講生の状況に係る効果検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての講義・演習において受講後アンケートを実施し、受講者の興味関心や理解度の把握することで、プログラムの改善に活用している。</li> <li>・修了生の追跡調査を行い、本プログラムの効果を検証した。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) スマート農業研修会・体験会 開催回数 66 回 参加者数 877 名</li> <li>2) スマート農業技術・サービスに関わる現地実証 実証農家数 93 件</li> <li>3) スマート農業に関する農業者への相談対応 相談件数 83 件</li> <li>4) スマート農業導入支援実績 導入農業者数 83 名</li> </ol> </li> <li>・修了生に対するフォローアップとして、修了生 4 名を同行したスマート農業先進地調査（宮崎県）を行った。</li> </ul>	<p>全講義後のアンケートや修了生の追跡調査を通じて受講者の興味や理解度、プログラムの効果検証が十分になされ、継続的な質の向上に活用されている点が評価される。先進地視察は非常に良い取り組みだが、費用面からより近距離の先進地を対象とし、多くの修了生が参加できるようにすることの検討が必要ではないか。今後、修了生が活躍できるよう、フォローアップへの支援強化、修了生と農業者が参加できる機会の創出、およびマスコミ活用によるスマート農業導入環境づくりを強く期待したい。</p>